



RI会長 ゲイリー・C.K.ホアン
第2640地区ガバナー 辻 秀和



2014-2015年
海南東ロータリークラブ

ROTARY CLUB OF KAINAN EAST

RI District 2640 Japan

第1799回例会

平成26年8月18日(月)

12:30～ 海南商工会議所4F

ガバナー公式訪問

1. 開会点鐘

2. ロータリーソング

「我らの生業」

3. ゲスト紹介

第2640地区 ガバナー 辻 秀和 様
代表幹事 山崎 規男 様
ガバナー補佐 谷脇 良樹 様

4. 出席報告

会員総数 49名 出席者数 35名
出席率 72.92% 前回修正出席率 81.25%

5. 会長スピーチ

会長 山東 剛一 君

みなさん今日は。本日は、ガバナー公式訪問の日ですが、先ず最初に8月8日早朝に亡くなられた柳生享男さんと御家族のみなさんに哀悼の意を表したいと思います。あまりにも突然のことでわがクラブは勿論のこと、他のクラブでもほとんど前例のないことだと思います。幹事が年度はじめ1ヶ月の早さで死亡するなんてことは。8日の朝、連絡をうけとるものも取り敢えずご自宅にかけつくとまだご近所の方もどなたも見えず、放心状態の奥さまとご長男が枕元に坐っておられました。ご遺体はまだ色艶もよく、声をかけたら返事をするような感じがしました。通夜・告別式には会員のみなさま、参列し、お手伝いしてくれたこと感謝申し上げます。

幹事の死去にともない、今日のガバナー公式訪問は控え新幹事の人選を急がねばということで、ここ幹事席に坐っている副会長の中西くんにお越し、副会長には国際奉仕委員長であり、ガバナー補佐の谷脇くんをお願いすることにし、先週の理事会で承認をいただきました。2年前の花田年度の幹事をまた副会長からひっぱりだし、ガバナー補佐として理事として忙しい



谷脇くんにも無理なことをお願いしたのはわけがあります。あと1,2ヵ月というなら前幹事の太谷さんをお願いすることもあります。なにせまだ1ヶ月しかたっていないから2年連続になります。これは気の毒な話です。チャーターメンバーの宮田さん、楠部さんにご相談し、このような人事になったことみなさんにご報告し、ご承認いただきたく思います。よろしくお願いします。

さて、本日は辻ガバナー公式訪問でございます。なにせ考えられないような突然の出来事で何の準備もできず、本日は何かと辻ガバナー代表幹事の方々には失礼なこともあろうかと思いますが、なにとぞ事情をご賢察の上よろしくお願い致します。ありがとうございます。

6. 幹事報告

幹事 中西 秀文 君

○例会臨時変更のお知らせ

海南西RC 9月4日(木) → 9月1日(月)

19:00～ 海南商工会議所4F

(海南東RCとの合同例会)

○堺フェニックスローターアクトクラブRI加盟認証のお知らせ

創立日 2014年7月7日

加盟認証日 2014年7月29日

例会場 堺フェニックスRC事務所会議室

例会日 第2・第4金曜日 18:30分開始

7. ガバナースピーチ

地区ガバナー 辻 秀和 様

皆様 こんにちは、本日は、2014-2015年度地区ガバナー公式訪問でございます。先立ちまして、会長山東剛一様、幹事中西秀文様、ガバナー補佐の谷脇良樹様もご同席の上、会長・幹事懇談会を、なごやかに、かつ有意義にさせていただきました。今回、海南東ロータリークラブ様を、公式訪問させていただき、このように大歓迎をしていただき、大変な名誉でございます。衷心より感謝申し上げます。



四つのテスト 実行はこれにてしてから

- ①真実かどうか ③好意と友情を深められるか
- ②みんなに公平か ④みんなのためになるかどうか



事務所 〒642-0002 海南市日方1294(海南商工会議所内)

電話(073)483-0801 FAX(073)483-2266

会長：山東 剛一 幹事：柳生 享男 SAA：山田 裕之

<http://www.kainaneast-rc.jp>

E-mail: info@kainaneast-rc.jp

This is the Rotary !! This is the Rotary !!
このあと、ガバナーの責務でございます。国際協議会
のご報告をさせていただきます。

新會員卓話 藤山 陽三 君 花畑 重靖 君



幅広く寄付を募る

クラウドソーシングのすすめ

米国のある男性は、クラウドソーシング（不特定多数の人びとにオンラインで支援をよびかけること）を通じて約 60,000 ドルの寄付を集めました。元もとの



目的は、「特別なポテトサラダを作ること」 この男性、はじめは冗談半分で、10ドルの寄付を募ったそうです。このアイデアがオンライン上で大変な人気を

呼び、多額の寄付につながったとのこと。ポテトサラダの改良に簡単に寄付が集まるのなら、お腹を空かせた子どもたちに食糧を送ったり、戦争で苦しむ国に学校を建てるための寄付も簡単に集まるのではと考えてしまうかもしれません。

しかし現実はその簡単にはいきません。現在、数多くの人道支援団体が、世界中で実施するプロジェクトのために競い合って寄付を募っている状態です。

では、オンラインを利用した寄付集めを成功に導くにはどうしたらよいのでしょうか。その答えは意外とシンプルです。ずばり、「寄付をしやすくする」ことがポイントです。皆さんのプロジェクトを支援する「サポーター」として支援しやすい方法とは何か。以下にいくつかのコツをご紹介します。

ロータリーのアイデア応援サイトを利用する：アイデア応援サイトは、ロータリーによるクラウドソーシングのウェブサイトです。皆さんがプロジェクトの主催者である場合、支援が必要なプロジェクトの概要を掲載し、寄付、ボランティア、物資を募ることができます。また、掲載されているプロジェクトにボラン

ティアとして参加したり、寄付を行ったり、物資を寄贈することができます。

パウラ・ウィンランド・バン・ズィルさん（ザンビアのリビングストン・ロータリークラブ）は、「アイデア応援サイトを通じて、エイズ孤児のための家づくりに必要な8人のボランティアを集めた」と話します。地元ではインターネットへの接続が不安定なので、ウェブサイトを作ったり、Eメールに頼らずにプロジェクトを広報できる、アイデア応援サイトを活用しているというズィルさん。「プロジェクトに欠かせないボランティアを集めるのに、このウェブサイトは本当に役立ちます」

オンライン決済サービス「ペイパル (PayPal)」のアカウントを作る: オンラインで簡単に少額の寄付を送ってもらえるよう、オンライン決済サービスの「ペイパル (PayPal)」のようなサイトにアカウントを作成するのも一案です。一度に多額の寄付をお願いするのではなく、小額の寄付を簡単に送れる方法を提示するとともに、寄付金がどのように利用されるかについても明確に伝えることが大切です。

パートナーを見つける：大規模なプロジェクトの場合、ほかのクラブからの資金的協力が必要な場合もあります。例えば、クラブの奉仕プロジェクトで1,000ドルが必要だった場合、ロータリーのアイデア応援サイトから資金の面で協力してくれるパートナーを探すことが可能です。必要に応じて、追加のパートナーを求めることもできます。プロジェクトを掲載すると、トップページの「プロジェクトのスポットライト」に表示されたり、ロータリーの出版物で紹介される可能性があります。

サポーターの意欲を高めるプロジェクト概要を書く：寄付者を圧倒せずに、寄付への意欲を高めるような概要文を書くことが重要です。なかなか難しいかもしれませんが、プロジェクトへのサポートをより多く得るために、分かりやすい概要を書くことが求められます。以下にコツをご紹介します。

・友人や同僚と話しているかのようなトーンで書く（業界用語や技術的専門用語は避ける）・1つの長い文章で1段落としない（2～3行の文章に分ける）・最も重要な情報を強調するため、各段落に小見出しをつける・リストは箇条書きにする・大文字だけを利用するのは避ける（英語の場合）・書いた文章を読み直す（できればほかの人に読んでもらい、誤字脱字や文法の間違いを正してもらう）プロジェクトの目標を明確に：プロジェクトで達成したい目標を明確に示し、それに必要なリソースを挙げましょう。このためにも、プロジェクトの概要を紹介する際は、支援者に目的が分かりやすいよう、箇条書きを利用した簡潔な文章にしましょう。

写真を撮る：プロジェクトの概要を掲載する際、達成しようとしていることを表現する写真を掲載することをお勧めします（できれば受益者の写真）。写真を掲載する場合は、著作権の問題がないことを確認しましょう。

寄付へのお礼は迅速に：寄付を受け取ったら、迅速

に寄付者にお礼をすることが大切です。その後、プロジェクトの進捗レポートや追加の資金ニーズに関する情報を送るようにします。しっかりと報告することで、再度寄付をしたいという意欲につながる可能性があります。

ガーナの村にきれいな水を

「5 歳未満の子供たちの 5 人に一人が汚染された水を飲んで死亡している」。これが世界の現実です。しかも



飲み水を汲みに行くために、毎年世界で約 400 億時間が費やされ、その作業は主に女性と子供たちが担っています。

アフリカのガーナでは、人口の 20 パーセントに当たる約 500 万人が、汚染された水を使っていると推定され、その結果、多くの人びとがさまざまな病気の危険にさらされています。

ロータリー会員、マーティー・ハタラさん（米国アラバマ州、ボアズ・ロータリークラブ）は、2010 年に初めてガーナを訪れ、孤児院でボランティア活動に参加した時、地域の人びとがきれいな水を求めて苦労している様子を目の当たりにしました。「場合によっては、11 キロも歩いて水を汲みに行かなければならなかった」と振り返ります。

ハタラさんのこの経験について知り、ボアズ・ロータリークラブと、同じ州にあるアラバスターペラム・ロータリークラブの会員が立ち上がりました。ロータリー会員たちはガーナのボルタ地域の村、アフラオで、飲み水用の井戸を掘り、村人が長い時間をかけずに、近くできれいな水を汲めるようにしたのです。これで、村の母親と子供たちが水汲みに苦労する必要がなくなりました。

ハタラさんはその後、地元の人に別の地域に案内してもらいました。アフラオと違い、その地域には地表に水源がありました。ロータリー会員たちは、その水源から 9 つの村まで送水管を敷き、市場、寄宿舍、学校、養鶏場など主要な施設で水が使えるようにしました。ハタラさんはその際、水道と下水管理の専門家、アラバスターペラム・クラブのクレイグ・ソレンセンさんの力を借り、地元の人びとにもこのプロジェクトの進行状態を常に知らせ、実際に参加してもらいました。当初 6 つの村まで敷くはずだった送水管を 9 つの村に延長できたのも、地域のリーダーの紹介で、地元の労働力を確保できたからです。このプロジェクトは去る 3 月に完了しました。このプロジェクトに参加したクラブの会員たちは、ほかの地域でも水源を探し、もっと多くの人びとの日常を改善したいと考えています。ソレンセンさんはこう語ります。「地域の人び

と話し合っているうちに、出水量が多い井戸から送水管を敷き、それを延長することで、最初の 2 つのプロジェクトと同じぐらいの資金で、遠隔地まで水を送ることができることがわかったんです。村人の生活が改善されていくのを見るのはとても満足感があります。きれいな水が利用できるようになり、これから数世代にわたって、人びとの保健、教育、収入の面でもとてもいい影響があると思います」

ちびっこライターの作文が 世界を駆ける

これはジャマイカの小学校。11 歳のジョーダン君が、ある子犬の話をクラスで発表しています。その子犬は、配水管に落ちて衰弱していたとき、



ジョーダン君の家族に助けられました。その後、浜辺で遊べるほど元気になり、やがて大きな犬に...

この話は、7~11 歳の生徒たちによる児童作文コンテストに寄せられた話です。コンテストは、カリブ地域のロータリー E クラブが中心となり、周辺の 10 カ国が協力して主催されました。

子どもたちの作文が世界に

児童作文コンテストのアイデアを思いついたロータリー会員は、英国のロータリークラブが主催した青少年プログラムからヒントを得ました。コンテスト規約や公募方法を学び、これならインターネットで活動する E クラブにもできると思ったそうです。その後、地元クラブの連携を駆使して、多くの小学校から作品を募りました。2013 年の第 1 回コンテストでは 200 の応募があり、2014 年には 300 名のちびっこライターが参加。協力クラブごとに 3 つの地域賞を選び、主催者の E クラブが 10 の優秀作品を選びました。参加者には図書券をプレゼントし、さらなる読書を応援します。優秀作品は、“The Butterfly StoryBook”という一冊の本となって出版されました。また、ハイチのボランティア学生によってフランス語とクレオール語に翻訳され、近くスペイン語にも翻訳される予定です。主催者の E クラブは、子どもたちの読み書き支援に役立ててもらおうと、この本をジャマイカの識字協会に寄贈。識字協会は、これのお返しにと、カリブ諸国でのコンテスト普及を応援することに同意しました。また、バージン諸島のロータリークラブが地元での識字支援に活用するために 500 部を購入したほか、カナダ、エチオピア、ハイチ、インド、英国の小学校への寄贈用にさらに多くを購入しました。

この本は、Amazon.com で購入できます。収益は読み書き支援の活動に充てられ、図書館への寄贈にも最適です。